

件名	第2回地域別懇談会【栗原・東原地域】	頁	1/9
日時	平成22年3月19日(金)19:00~21:00	場所	東原コミュニティセンター

1. 開会【企画財政部次長による開会】

省略（1. 開会については、別ファイルにまとめています）

2. あいさつ【市長によるあいさつ】

省略（2. 市長あいさつについては、別ファイルにまとめています）

3. 基本構想素案及び都市マスタープラン改定計画案の説明

(1) 基本構想素案の概要説明

省略（3. 基本構想素案及び都市マスタープラン改定計画案の説明については、別ファイルにまとめています）

(2) 都市計画マスタープラン改定計画案の説明

省略（3. 基本構想素案及び都市マスタープラン改定計画案の説明については、別ファイルにまとめています）

4. 質疑

【司会】

ありがとうございました。説明が終わりましたのでこれより質疑に入りたいと思います。本来であれば本日ご出席の方々、お一人お一人からご意見をいただければ非常に良いのですが、会場の都合上、またこのあと皆様方からご意見いただいたことに対して総括的なまとめを遠藤市長のほうから致しますので、8時半前後を目途に質疑時間を取りたいと考えております。ご質問のある方につきましては挙手をお願いいたします。その際マイクをお持ちしますので、ご発言のほどよろしくをお願いいたします。それでは質問のある方挙手をお願いいたします。

【質問者】

東原の〇〇と申します。いただいた資料まだ詳しく読んでいないので、もし解説の中にありましたらご容赦下さい。ここにマスタープランの改定について色々と方向が示されていますが、できましたら、前回のマスタープランの掲げられた方向と今までの結果、今回新たに取り組まれた方向との違いがあるのか、同じなのか、どう考え方で変えるのかということを具体的にわかりやすく皆さんにお話しいただきますと助かります。よろしくをお願いいたします。

【市役所】

都市部長の和田と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

現在の都市マスタープランは20年計画の今ちょうど半ばにさしかかっています。そういう中

件名	第2回地域別懇談会【栗原・東原地域】	頁	2/9
日時	平成22年3月19日(金)19:00~21:00	場所	東原コミュニティセンター

で、三次総合計画が平成22年度で終わりになります。現在、新しく仮称の第四次総合計画ということで、23年度からの10年間ということになりまして、都市マスタープランの後期の10年間にあたる部分になります。都市マスタープランにつきましては、現在20年間でまだ半ばでございますが、その基となる総合計画がここで変わることから、あわせて見直しを行っており、当然前期10年が経過しておりますので、その段階での総括というものはしております。こちらについては座間市のホームページのほうに細かく総括の内容まで記載をさせていただいております。今その話の中身ということになりますと、大変時間がかかりますので、詳しくはホームページをご覧くださいと思います。

そして、その10年間、前期が終わったところでの総括を踏まえて、新しい総合計画に合わせたかたちの改正ということで、今回はまだ途中経過でございます。こちらの都市マスタープランの見直しにつきましては、まだ、今、途中経過の報告ということになっておりまして、まだ素案のまだこれからになっております。都市マスタープランにつきましては、今年の8月9月頃に地域別の懇談会、都市マスタープランにつきまして開催をさせていただく予定をしておりますので、よろしくお願いいたします。

【司会】

よろしいでしょうか。また、別の方のご意見をお願いしたいと思っております。

【質問者】

栗原中央の〇〇と申します。人口はこれから微減というか、年に約千人の減少傾向の中での色々プランは計画されていると思いますが、1つお聞きしたいのと、それらが今後どう影響してくるのかということでお尋ねしたいと思っております。

プランの中では3つのゾーンということで、ひとつ制定しながらおりますけども、現在座間市の中において住居表示区域、町名変更区域、またまだ手がついていない区域、この3つがあるわけですが、これらが住居表示、あるいは町名変更をやってきた1つの軸となるのは何がベースになって、まちと何丁目というものが制定されているのか、今までの軸がどういうものであったかということをお聞きしたいのと、今度その3つのゾーンができていったときに、これらがどう影響してくるのか、この辺の関連について教えていただけたらと思います。以上です。

【市役所】

続きまして、もう一度都市部長の和田です。よろしくお願いいたします。

まず、住居表示の関係でございます。住居表示と町名変更でございますが、座間市の場合は、まず座間市の東部に飛び地というような町名が多々ございました。例えば、座間市の小松原のほうに座間エリアが飛んだりといった、西部にある地名が多々東部のほうにもあったため、混乱の原因となっております。そこで町名変更、そして住居表示法がございます。今までは土地番が住所であった、そういう土地番での1つの大きな土地ですと、枝がいっぱい振られて、

件名	第2回地域別懇談会【栗原・東原地域】	頁	3/9
日時	平成22年3月19日(金)19:00~21:00	場所	東原コミュニティセンター

それも飛び飛びになって、なかなかわかりづらい、そういうところから住所をわかりやすくするという意味合いから住居表示というものができまして、座間市でも最初になったのが相模が丘地区でございまして、その後順次実施をして最終は平成14年のひばりが丘地区でございまして。市のほうとしましては、次には相武台地区を予定しておるところでございまして、現在の経済状況ともあいまみえ、また、その必要性というものの検証の中からも延び延びにはなっておりますが、着実な進捗を今後していかなければならないと思っております。そういう中でまだできていないところが、相武台、入谷、座間、そして西部地区ということになるわけでございます。順次実施はしていかなければならないものと思っております。

それとこの都市マスのほうの資料のゾーンとの関連ということでしょうか。3つの区分けというのはこの市街地ゾーン、田園自然環境ゾーン、利用調整ゾーンを3つに分けたと思っておりますけれども、こちらと住居表示のほうとの直接の関連ということでは、私どもは考えてはおりません。このゾーンにつきましては、市街地ゾーンはあくまでも市街化区域、もう1つ田園自然環境ゾーンと利用調整ゾーン、こちらについては市街化調整区域の中で基本的に分けさせていただいているものでございます。

【質問者】

聞いているほうがよくわかってないのかもしれませんが、そういう意味では大変申し訳ないですが、現在整備されている住居表示されているところについては、まちの名前と町名が番地までしっかりしていますよね。これら例えば何丁目と決めるときに、1つの例として、例えば人口というものがひとつの目安になって、1丁目を制定しているのか、あるいは面積というものがベースになって制定されているのか。飛び地があったやつを整備しましたということはわかります。その他1丁目2丁目とあるものを、何をベースにしてやってきたのか、という質問です。それらが今度市街化区域、丁目の単位が例えば人口にしたら、非常に狭い面積の中で丁目が設定されるのではないかと思います。田園、自然を守るゾーンですと、家がさほどないですから、広い区域で1丁目というものが制定されるのではないかと、という素人考えです。それが今までは何を軸に町と丁目が制定されたのかということ、それに基づいて今後どんな影響があるのかなという感じで受け止めているのですが。

【市役所】

質問のほうも難しくなりましたので、私のほうでどこまで今の時点で対応できるかちょっと疑問ですが、基本的に街区というものが、道路で区切られた範囲を街区といいますが、それが例えば緑ヶ丘ですと、緑ヶ丘何丁目の何番というのが1つの街区になります。その街区がある程度小字程度に構成されて丁目、それが大字というものが地域、緑ヶ丘とか小松原とか相模が丘、そういう単位になってくると思います。ご説明この程度しかできなくてちょっと恐縮ですが。

【質問者】

件名	第2回地域別懇談会【栗原・東原地域】	頁	4/9
日時	平成22年3月19日(金)19:00~21:00	場所	東原コミュニティセンター

私もちょっと深く調べてないから、わからないことがあります、例えば何々町の1丁目は5千人いるとしますよね、ところが他の何々町1丁目という5百人ぐらいしか住んでないとか。道路を1つの軸にしてやっているというのはわかりますが、そうしたときの課題というのもあるかと。道路で切った上には座間はかなり起伏があるので、高台には道がないですから下に降りていく、下に降りていくとそこは違うまち、でもその山の裾にあるところの人たちは生活圏というものは隣の町になってしまう。そういうものもある程度これから色々な部分で考慮していかないといけないのではないかと、それから私ども自治会という立場で、今座間の自治会は近隣含めて非常に加入率の悪いワーストの自治会になっています。ですから自治会そのものをもっと見直していかなくちゃいけないということで、それにもかなり影響が出てくるのかなと思っています。今日はそんな問題提起をしておいておしまいにしておきたいと思えますけれども、よろしくお願いします。

【市役所】

ありがとうございました。今色々住居表示の関連でお話しがありました。確かに、最後に出てきましたところがポイントかなと思っておりますが、自治会の単位が日頃の生活圏というお付き合いの範囲がある、それが住居表示法でいきますと、道路、河川などで切れてしまうわけですから、そこに今までもそういう問題はありました。小松原、ひばりが丘のときも色々新しい道路ができましたし、そういう問題が確かにございます。ですからこの住居表示、行政が一方的に進めるのではなくて、やはり地元のご意見を聞くというのが、法律でも基本となっています。ですからやはり街区を決める場合は、やっぱり地元ときちんとお話しをしていく、充分お話ししていくことが大切だと思います。

自治会の問題に発展しましたが、自治会確かにおっしゃるとおりです。ですから、今後やはりそういうところも、あまりにも大きいところとあまりにも小さいところ、それは自然発生的に、歴史的にできてしまった部分があると思います。ですから、それも無理に強制的に区切っていくと問題があるということですので、非常に難しい問題だと思います。課題として受け止めてさせていただきます。ありがとうございました。

【司会】

ありがとうございました。引き続きご質問のある方の挙手をお願いいたします。

【質問者】

南栗原の〇〇です。具体的に素案を隅まで読んだわけではないですが、感じたことを意見として述べさせていただきたいと思っております。先ほど出ましたように、自治会と市政ということで、私、この度自治会活動をやらせていただきましたけれども、素案の中に、これから具体的に進められる10年間でやっていくことと思えますけれども、自治会の名前というのはほんの一片か二片しか出てきません、この素案の中に。内容ざっと見ただけですが、自治会活動に関わる問題や課題、取り組むべきものが結構網羅されていると思います。その網羅されてい

件名	第2回地域別懇談会【栗原・東原地域】	頁	5/9
日時	平成22年3月19日(金)19:00~21:00	場所	東原コミュニティセンター

る中で自治会が取組むことで、やはり意識付け、位置付けがもっと前面に出していいのではないかなと私は考えます。

というのは、先ほどこちょっと話がありましたけれども、この度総会前に新しい役員の人選を行いました。そのときに役員になるなら私脱会しますと、こういう現実問題があります。自治会活動に取り組むために、皆さんから一世帯あたり年会費をいただいていると、税金いただいていると同じようなものだと思います。そうすると自治会の役員になったからには、何か活動をしなくてはならない。防災、防犯色々なことありました、取り組んできました。これをまた来年度に引き継いでもらいたい。もっとやるべきことは、この素案の中身を見るといっぱい出てくると思う。この10年間で自治会活動の位置付け、それをなんらかのかたちでしっかりと明記していただければもっと活動しやすくなるのではないかと感じましたのでご意見を述べさせていただきます。以上です。

【市役所】

企画財政部長の宮代と申します、よろしくお願いいいたします。今自治会の関係、まさに数値を捉えますと年々減少だと思えます。この関係につきましては、今日の概要版の中には具体的な内容については触れておりませんが、今日の概要版のオモテにも枠の中にある③の戦略プロジェクトというものがござります。この戦略プロジェクトの中に自治会の関係、特に加入率の低下の現状をどうすれば上げていくかということ、ひとつの大きな課題のテーマとして取り上げております。したがって、今日は具体的な数字等についてはまだ精査中であるためお見せできませんが、このプロジェクトにつきましては当然皆様にも公表して進めていきたいと思えますので、今日のところはご理解いただきたいと思います。

【司会】

それでは他の方のご質問を受けたいと思えます。

【質問者】

南栗原の〇〇といいます。初めの方と同じような質問ですが、座間都市マスタープランの改定の内容で、改定に向けた方向性と書いてありますが、今回、方向性だけじゃなくて、先ほど10年間の総括にたつてこの方向性を改定しますというお話しでした。当初の方向性があって、今回こう変えますという、方向性だけでも、当初のものから今回の方向性があるということがわかるように示していただかないと、どういう方向で持っていこうとしているか、なかなか10年前と今とどう違うかわかりませんので、主要な説明の中で前回からこう変わる等、矢印で結構ですので説明していただくと、非常に資料としてわかりやすく、私たちのまちはどう変わるかと非常にわかりやすいと思ったので、ぜひ次に資料を作る際にはそのような内容でお願いしたいと思います。

【市役所】

件名	第2回地域別懇談会【栗原・東原地域】	頁	6/9
日時	平成22年3月19日(金)19:00~21:00	場所	東原コミュニティセンター

総括では出しましたが、今回の資料の中でそこまで手がまわりませんでした。次回からはそういうところまで配慮して資料を作ってまいりたいと思います。ありがとうございます。

【司会】

それではまた質問のある方については挙手でお願いします。

【質問者】

質問ではありません。今日で3日目ですよ。第1回目のときすごく集まったのが、今日これだけの数になっていますが、昨日、一昨日とどのぐらいの数だったかを教えてください。

【市役所】

政策課長の山本でございます。一昨日が41名、昨日が35名でございます。昨日が四ツ谷新田宿コミセンでございます。一昨日が相武台コミセンで実施させていただきました。

本日は33名でございます。

【司会】

予定の時間になりました。皆さん方沢山のご意見いただきたいと思いますので、あと1人ぐらいもしご意見がある方については、よろしくお願ひしたいと思います。

ないようであれば最後に、今日いただきましたご意見の内容を踏まえまして、遠藤座間市長より総括的なまとめをお願いしたいと思っています。

5. 市長による総括

【市長】

長時間にわたってありがとうございます。そして今日数少ないご質問ではございましたが、今回のこの総合計画において一番大切なポイントについてお尋ねいただいたと思っています。それは自治会の関係、それから住区の関係。住居表示ということから私どもの方から話を起こしてもらいましたが、今回この過去20年間の第三次総合計画を踏まえて、第四次を策定していくという冒頭にあたり、私自身も非常にこれは課題だと思ったのが、まずは先ほど申し上げた、少子化社会、高齢化社会ということです。いわゆる成熟をしたという言い方をすればきれいですが、有史以来、この人類の文明というものは人口が増えてくると経済も右肩上がりだんだん高度化していくということが前提になってきましたが、そこがストップをしてフラットになっているため、これからはゼロサムの状態です。さらに生産年齢人口が減ってくるということで、誰が誰をどう支えていくのかということを実際に考えていかなければならない社会が、我が国全体にくることになります。

さらに、財政の課題を考えれば、いかに有効に活用していくかと考えなければならないわけで、単にお金だけですむとはいかない状況にある。そしてこれまでの計画、一般的に行政がつくるこの総合計画、将来の計画ということを見ると、やはり思い浮かぶのは道路がどこにで

件名	第2回地域別懇談会【栗原・東原地域】	頁	7/9
日時	平成22年3月19日(金)19:00~21:00	場所	東原コミュニティセンター

きるか、どこに施設ができるか、学校新しくなるのかなど、ハードウェアの整備というイメージがどうしてもあると思います。しかしこれには限界があると同時に、これまで培ってきたものをきちんと先人の遺産として末永く、もったいないという気持ちで後世に伝えていくという努力も必要なわけで、そうした一連の考え方というものをこの計画の中にしっかりと盛り込んでいかないといけないと私ども考えたのです。

その中で何が一番財産になるかという、また一番これを必要とするのは誰かという、全て人です。この17.58km²の小さなまちに住んでらっしゃる、現在で12万9千人近いこの座間の市民が、これから自らのまちをどのようにしていくのかということで、それを実際に執行していくことを任されているのが私ども行政であるわけで、その私どもが、皆さんが何をお感じになってらっしゃるのか、それをどのように計画として具体化をして取り組んでいくのかということが問われているのが、この計画の策定だと思っています。

そこで、自治会、それから住居表示の関係、まちの丁目の変更、さらにはその中での住居表示の実施などの点からご指摘いただきましたが、この座間のまち自体が戦前は俗に言う下村、今で言う座間市座間、座間市新田宿、四ツ谷、入谷、座間市栗原、目久尻川流域、こうした水に近いところに皆さんが住んでらっしゃって、その入会地や球根作物の栽培地、開墾があったわけですから桑畑など、こういった部分で台上地域の利用がありました。そこにはそれぞれの昔の村の皆さんの土地に関する権利関係などがすべてあったため、それが残った中で急激な都市化が進んできてしまった。であるがゆえに、今の小松原のあたりもそのような名前が残っている、という課題があります。この座間については、幸か不幸かと考えれば、昭和30年代の早い時期からいち早く工業誘致に成功して、財政的には全国でもまれなくらいに非常に豊かなまちであった時期もありました。それを追いかけるように住宅地化が進みましたが、残念ながら国が定める都市計画法の施行の前後、あるいはこれに先立つかたちで開発が進んでしまいましたがゆえに、都市計画というものは後付けになってきてしまった部分がある。そうした中で、住んでらっしゃる皆さんは自然発生的にできた旧来からの村落共同体を中心とした自治会、人と人とのつながりという部分、それから新たに住宅が開発されて、地域的に同一な皆さんがひとまとめになり、コミュニティをつくれ、自治会をつくれる、といったものがあるなど、それぞれの要素が全て混在をしたまま今に至っています。さらにそこには地形的な要素もあります。これもご指摘いただいたように、目久尻川の流域のずっと低地の部分と台上地域の部分、これは単に平面的に落としていけば栗原中央とか南栗原といったような部分で、上から見ただけでは分かりませんが、生活実感からすれば坂登っていった上というところもあります。こうした部分がありますが、それについては特に台上地域の旧来の入会地だった部分から、今の丁目の変更などを含めて住居表示の実施をしてきて、機械的に分けてきた部分が間違いなくあると思います。それが、今度は地形が複雑になっているところや、昔からのコミュニティが残っているところに実施をしていくとなると、ここでもやはり今までの部分と合理性の部分との間に様々な課題が出てくる可能性があると思います。また、例をひきますと、座架依橋から南林間線につながってくる部分の大きな道路、座間市の下宿のあたりでは、あの道路ができたがゆえに道路の南側と北側に分かれて、南側に何軒か自治会が分かれてしまうところがあったりし

件名	第2回地域別懇談会【栗原・東原地域】	頁	8/9
日時	平成22年3月19日(金)19:00~21:00	場所	東原コミュニティセンター

ます。こうしたところも一般論で考えれば、そこを整備してきちんと今の街区に従ってまとめたほうがいいのかという部分もありますが、そうはいかない部分があったりします。

これは、自治会というものについて、今196自治会があると思いますが、それぞれの成立要因が違う中でどのようにとりまとめをしていったらいいか、またかつての名残ということを考えると、どのような考え方の集約をしていけばよいかということは、大変難しい課題であると同時に、正面から向き合わなければいけない課題であると思っています。

その自治会というものについても、色んな議論がございます。多様な価値観を持たれている今の時代の座間の市民の皆さんにとって、昔であれば同じ地域に住む皆さんが、例えば水が出たとか、災害に対しての備えもそうですし、色々な部分で隣近所が力を合わせて、いろんなことにあたっていったということが、半世紀前まではあったと思います。それが、地域の中に住んではいるけれども仕事は外に行く、学校は外に行くといったことからだんだん必要性が薄れ、このあり方というものが非常に曖昧になってきている部分があると思います。

しかし、さっき申し上げたように、この狭いまちに1kmあたり7千数百人も住まれるまちの中で、例えば万が一災害が起こったときに、大地震がきたときにどうなるかと言えば、今色々な様式、価値観に基づいて生活をされていますけれども、いつか原始の時代に戻るわけです。ご近所お隣助け合わなければならないという状況になってくるということが、間違いなく、残念ながら近未来的には起こってくることも覚悟しなければいけない。そう考えるとやはり、こうした部分でのコミュニティというものについても色々な角度から考えていかないとはいけないことになると思います。では、面的な広がりの中での自治会にいいから誰でも入りなさい、しっかりそこに入らなきゃだめです、強制的に、義務的に入って下さい、という時代ではなくなってしまったわけです。そうすると、どうしても地理的なものに面的な広がり、面的な中での人間関係というものをきちんと再構築をしてやっていくこともお示ししなければいけないし、行政として非常に難しい課題でありますけれども、リードしていく方法を考えていかなければならない。これはやはり、おっしゃられるように色々なかたちでこの計画の中にお示ししていかなければいけないと思っています。

もう一方では、このコミュニティセンターではありませんが、ここでも多様な活動をされている方がいらっしゃると思う。地域の中でのいわゆる隣近所でのお付き合いはなくとも、ご自分の興味だとか、好きなことだとか、はるかに離れたところにいらっしゃる友達などの部分での人間関係は、例えば高齢の方の人口が増えてくるというお話しをしておりますが、そのような中でも孤独感というものを感ぜずに、それなりのお付き合いの中で充実した生活を送っていらっしゃる方もいらっしゃると思います。

そうであれば、その両面から色々な部分での人との関係というものを縦糸横糸のように織り成したうえで、どこかに接点を見出し、このまちに住む人たちがどこかでつながっているという部分をまずつくることが大切になると思います。まずはそこからやらなければ、これだけ急速に市外からも多くの人が入ってこられて住まれるようになった座間のまちを、座間のまちの市民として求心力をつけてこのまちに愛着を持っていただいて、このまちに郷土愛を持っていただいて、共に住んでいくんだ、ここに骨をうずめて行くんだ、だからお互いに仲良

件名	第2回地域別懇談会【栗原・東原地域】	頁	9/9
日時	平成22年3月19日(金)19:00~21:00	場所	東原コミュニティセンター

くして何かあったときにはやっけていくんだ、という雰囲気を持っていく。そのためには1つ1つの色々な部分での取組というものが必要になろうかと思ひます。

これこそがやはり、今回なかなか表現というのは難しいですが、この計画の中に綿々と編みこんでいかなければならない基本的な考え方ではないかと私は思っています。どうしても計画であるため、文章表現など噛み砕いて、今私が申し上げたようなことはまだまだうまく表現ができませんが、そのあたりについて私ども職員をあげて、そういう視点で皆さんからいただいたご意見、お考えなども咀嚼をしながら位置づけさせていただきたいと思ひていますが、まだまだ足りない部分があるかと思ひます。それから実際具体的に活動し暮らしていただき、お感じになられている部分で、これはこうしたほうがいいよ、ということがあるのではないかと思ひます。そうした部分についてはまだまだ時間がございますので、先ほど来、くどくど申し上げますが、今日は概要版でございますので、素案ができたものについてご覧になっていただき、ご意見を頂戴したいと思ひます。ここからさらに詳しい部分での政策を遂行していくにあたり、実施計画に落とし込んでいく必要があり、そこへの参考にもさせていただきたいと思ひます。

例えば今思いつきましたが、私もさがみ野に今おります。さがみ野をずっと斜めに進み、踏切を渡り、地図で見ますとわかりますが、菊田内科から相模大塚の交差点までの区間、相鉄線と道路に挟まれた細長い部分は、さっき〇〇さんおっしゃったような観点からすると、非常に孤立している地域になります。同じさがみ野の1丁目といっても、あそこだけは相鉄線で切れちゃってこちら側になってしまっている。相鉄線の向こうから進み、南栗原のほうに落ち込んでいく部分がありますが、そのあたりも上空から見て、また地図の上から投影して見ても、その実感が沸きません。こういうところを地区割りやコミュニティ、人と人との関係というのがどうなっているかについて、地元の皆さんの声を聞くことは、私は大事だと思ひますし、それも含めてきめ細やかなことをやっけていかなければいけないと思ひます。また、それができるのが、この12万8千、17.58km²というコンパクトな小さなまちのメリットだと私は思ひます。

ですから、非常に難しい課題があると思ひますし、10年で解決できる課題ではないかもしれませんが、しかしそうした姿勢をみなさん共々堅持しながら、取組をしてまいりたいと思ひますし、この計画の最終的なとりまとめにまいりたいと思ひます。どうかそのあたりも十分に咀嚼をしていただき、また貴重なご意見ご指導賜りたいと思ひます。今日は中間報告ということで、お忙しい中お集まりをいただきました。どうぞこれからもしっかりと私ども真剣に取り組んでまいりますので、ご指導ご鞭撻ご助力を賜りますようお願い申し上げます、本日の御礼とさせていただきます。どうぞ今後ともよろしくお願ひいたします。

【市役所】

以上をもちまして本日予定をしておりました内容については全て終了いたしました。本日は貴重なお時間とご意見いただきまして誠にありがとうございます。これをもちまして第2回地域別懇談会を閉じさせていただきます。ありがとうございます。